

# 第40回 全日本教職員連盟

## 教育研究全国大会（宮崎大会）提案資料

【第6分科会 特別支援教育】個に応じ、能力を伸ばす特別支援教育

### 医療・福祉・教育の連携

～県内視覚障害者の学びの保障のために～

令和4年8月24日～26日

第6回全国盲学校フロアバレーボール やまぐち大会  
（下関南総合支援学校 主管大会）



下関南総合支援学校 選手（キャプテン）のアタックの瞬間

山口県教職員団体連合会  
山口県立山口南総合支援学校  
教諭 梶原 誠

## 1 はじめに

下関南総合支援学校は山口県の最西端に位置した学校で、山口県立盲学校時代から山口県の視覚障害教育の中心を担ってきた学校である。平成20年度に総合支援学校に移行し、全国的にも非常に珍しい、原則5障害を対象とした総合支援学校となった。視覚に障害がない幼児児童生徒が増えているものの、現在でも県全域から視覚障害幼児児童生徒が集い、視覚障害のある者同士が互いに切磋琢磨しながら学校生活を送っている。

県内の動きで注目する点として、平成26年度に県内を3地域に分けた相談支援体制が始まった。下関南総合支援学校は、県西部地区の視覚障害教育センターとして相談支援を受けながら視覚障害教育センターが設置され、県中部に位置する山口南総合支援学校、県東部に位置する周南総合支援学校と協力しつつ、3センターの中心的な役割も担っている。

また近年、県内の眼科医、視能訓練士や看護師など医療従事者、教育および福祉関係者、企業等と連携する場面が増えてきている。この「連携」を核とした下関南総合支援学校の視覚障害教育センターの取組について報告する。

## 2 視覚障害教育センターの取組

### (1) 校内支援

#### ① 視覚障害教育に関する教員研修の実施

視覚障害教育センターとしての研修会を昨年度は6回実施した。その他にも寄宿舎指導員との希望研修等も行った。視覚障害教育センター室以外でも研修を行っており、下関南総合支援学校の研修は充実している。だが、視覚障害教育についてすべての教員が専門性をもっているかと問われたとき、残念ながらそうとは言えない。山口県では盲・聾・養護学校はすべて総合支援学校となり、原則5障害をどの学校でも受け入れる形となった。元盲学校である下関南総合支援学校は今でも県内の大多数の単一視覚障害児・者を受け入れている状況ではあるが、他障害の多くの者も下関南総合支援学校に入ることになった。視覚障害児自体が非常に少ない現状であるため、教職員の目の前にいる子どもたちの多くは視覚障害以外である。その教職員たちにとって、今必要な研修が視覚障害教育ではない場合が多い。

そのような状況において少しでも視覚障害教育に興味をもってほしいという気持ちから、普段視覚障害に関わっていない方でも参加できるよう『超初心者のための点字』と題した点字研修や、歩行体験等、基礎から学ぶ研修を組み立てた。以前は研修内容が難しく参加者が少なかったが、初心者向けにすることで参加者が増えた。ただ、一方で理療科教員の参加は減り、校内のニーズのすべてに 대응することが難しかった。そこで今年度は学部ごとに対象を絞り、小学部では視覚障害の在籍児童がいないことから「視覚障害の概論」、中学部・高等部では「定期テスト作成の具体的な方法」、寄宿舎では「日常生活指導と視覚障害について」とそれぞれの先生方のステージで少しでも必要な、興味をもってもらえそうなも

のを選んで研修を行うこととしている。

## ② 視覚障害教育に係る教材教具の貸出

本校では「アイ・あい展示室」を設置し、視覚障害者が使用する教材教具や日常生活等で使用する便利グッズ等を展示・保管している。あわせて、展示室で教材教具を管理し、幼児児童生徒や教員の要請に応じ、期間の長短を問わず必要な物品の貸出を行っている。



アイ・あい展示室

## ③ 自立活動支援・担任支援

学部を越えて視覚障害教育センター担当教員が自立活動の授業に入り、児童生徒の指導、教員の支援を行った。必ずその日のことを担任にワンペーパーでフィードバックした。直接話をする時間がすぐにはなくても、後日内容を忘れずに話をすることができ、より良い指導に活かすことができた。即時のフィードバックで共通理解を図ることにより指導方法の違いが減り、生徒が安心して生活できるようになった。結果的に保護者からの問い合わせなども減ったように思われる。



授業・デジタル教科書の活用(中1)

## (2) 地域支援

山口県では特別支援教育コーディネーターを『校内コーディネーター』と『地域コーディネーター』として、それぞれに役割を分担し運用している。

校内コーディネーター	全ての学校に配置。各園・学校における特別支援教育の推進のため、主に、校内委員会や校内研修の企画・運営、関係機関等との連絡調整、保護者からの相談窓口などの役割を担う。
地域コーディネーター	県内特別支援学校と小中学校サブセンター校に配置。地域において特別な教育的支援を必要とする児童生徒、保護者及び担任等への支援を行うために、地域の学校等への訪問支援など、地域の特別支援教育の充実に取り組む。

3つの視覚障害教育センターにも地域コーディネーターが配置されており、地域の視覚障害に関する相談・支援を行っている。支援形態と支援内容は以下のとおりである。

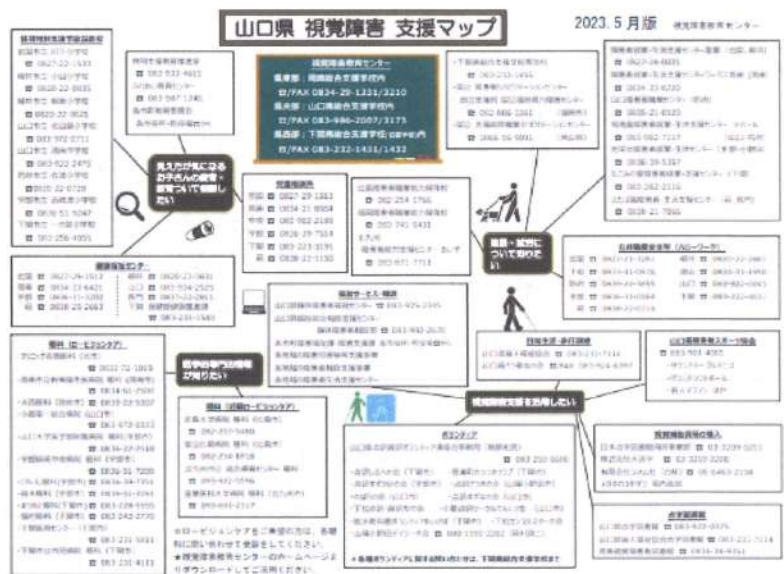


支援形態	支援内容
<ul style="list-style-type: none"> <li>・随時相談（年間を通して実施、特に夏季休業中に相談会を実施）</li> <li>●定期相談（実態に応じて週1、月1など個別で対応）</li> <li>・訪問相談（巡回訪問、要請訪問、在籍園・校訪問、研修協力など）</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・視覚に関すること（視力検査）</li> <li>・視覚補助具・補装具・日常生活用具に関すること</li> <li>・点字に関すること</li> <li>・歩行に関すること</li> <li>・学習や学習環境に関すること</li> <li>・福祉制度に関すること</li> <li>●関係機関の紹介</li> <li>・研修協力（情報提供）</li> </ul>

- 定期相談では、視覚障害に特化した通級のような形で運営している。視覚補助具の活用、歩行、点字など専門性が深く、3センターにしかできない支援を展開している。



- 連携に必要な関係機関一覧が県内にはこれまでなかった。そこで下関南総合支援学校の視覚障害教育センターが視覚的に見やすいものを作成した。情報は常に最新になるよう更新している。また、医療、福祉、教育関係に加えボランティア団体など多岐にわたり網羅して



いる。カテゴリー別に分け、何について知りたいのかを記載し、たどればわかるように作った。常に新しくすることを念頭に置き、『2023.5月版』と記載している。これがあることにより、こちらが関係機関について尋ねられてきたときにすぐに答えられるだけでなく、関係者に配布することにより、更に連携が進むきっかけとなっている。

### (3) 医療・福祉・教育との連携

各関係機関と多方面で連携した。以下、それらの取組を紹介する。

#### ① 【医療・福祉・教育すべて】「県西部エリア視覚障害教育関係機関連携協議会」の実施

毎年、下関南総合支援学校を会場として、医療・福祉・教育の関係者が集っての連携協議会を行っている。参加者は下の表のとおりで、参加者同士をつなげることで連携が進んでいる。本年度は事例検討会を行った。5つの仮想事例を作成し、グループに分かれて、その仮想事例の人物に対してそれぞれの機関がどのようなアプローチができるかを検討し、発表してもらった。それぞれの自己紹介だけで終わりにするのではなく、各機関の具体的な取組を知ることで、互いの機関についてより深く理解してもらう機会になった。

##### 仮想事例 B

- ・年齢 17歳 ・居住地 下関市 or 宇部市
- ・眼疾患 レーベル病 右(0.1) 左(0.08)
- ・相談者 母親、本人同席
- ・初回相談対応 小学校の担任に保護者から相談があった。
- ・成育歴、主訴 16歳の時にレーベル病を発症。教科書が読みにくく、黒板の文字も見えない。大学進学を希望しているが、このままだと勉強がままならない。どうしたらいいか。

##### 仮想事例 E

- ・年齢 27歳 ・居住地 下関市 or 美祿市
- ・眼疾患 網膜色素変性症 右(0.1) 左(0.2) 視野 10°
- ・相談者 本人
- ・初回相談対応 市役所福祉課
- ・成育歴、主訴 22歳で網膜色素変性症と診断。ぶつかりやすい。眩しくて見えにくい時がある。暗くなると見えにくい。現在、建築会社の事務員として、パソコン仕事や来客対応などを行っている。だが、これ以上見えにくくなると、もう仕事が続けられないかもしれない。どうしたらよいか。

##### 参加者

眼科医(病院)・視能訓練士(病院)・視覚障害生活訓練等指導員(通称:歩行訓練士)(盲人福祉協会)・県立点字図書館・点訳音訳ボランティア連絡会代表・子ども発達センター・市障害者支援センター・市公共職業安定所・各市障害福祉課・県教育委員会・各市教育委員会・弱視特別支援学級担当者

#### ② 【山口学芸大学】「アイあいチャレンジ教室」の実施

毎年、下関南総合支援学校が県内の視覚障害がある幼児児童生徒へ呼びかけて実施している。視覚障害幼児児童生徒とその親のための交流会のようなものである。昨年度は11月3日に実施した。子どもに対しては大学生が企画したレクリエーションを、大人に対しては視覚障害のある教員や山口学芸大学門脇准教授を交えた子育てについての座談会を実施



交流・チャレンジ教室(小学生)

した。山口県には視覚障害教育の教員養成がないが、門脇准教授と連携し、学生を含め広範囲にわたり視覚障害教育の理解啓発を進めることができています。



### ③ 【地元バス会社】「バス触察」の実施

視覚障害者にとって、公共交通機関は重要である。バスもその中の1つであるが、実際に利用するには困難が多い。実物に触れ体験させたくても、運行しているバスで触れさせることは難しい。そこで地元のバス会社に依頼し、バスを体感できる時間を設定した。児童生徒はバスの構造、押しボタンの位置、ICカードの読み取り機の場所、吊り輪、段差の位置など実物を丹念に見て理解を深めることができた。



触察・バス外観を触る  
(小6)

### ④ 【歩行訓練士】「歩行訓練」の実施

視覚障害者にとって、歩行は大きな課題である。自立活動でも大きなテーマとして位置付けられることが多い。しかし、歩行についての具体的な支援については専門性が高く、誰でもすぐに指導できるものではない。下関南総合支援学校では、歩行訓練士を外部講師として招聘し、幼児児童生徒に実際に指導してもらいつつ、複数の教員がそれを見学することで、専門性の向上を目指している。



歩行指導・買い物(専保3)

### ⑤ 【小学校】「点字ブロック啓発活動」の実施

下関南総合支援学校に一番近い小学校である生野小学校との交流をすすめ、昨年度は下関南総合支援学校の生徒が先生として、小学4年生に点字と点字ブロックについての授業を行った。それを受けて小学生が自分たちでできることを考え、ポスターを制作し、近所の郵便局に掲示する依頼を両校合同で行った。両校の関係が深まることで相互理解が深まり、地域にも広がる取り組みになった。



交流・高校生による  
出前授業(高2)

### ⑥ 【下関市立考古博物館】出前授業等の実施

下関市立考古博物館から、「ユニバーサルミュージアムの取組に協力してほしい」という依頼から連携がスタートした。視覚障害があっても分かる博物館にするため、下関南総合支援学校の視覚障害のある教員が実際に視察し、施設を改良していった。その取組の中で、児童生徒への出前授業を複数回行っ



出前授業・模型を触る(高2)

てもらい、学芸員の方には視覚障害についての理解を深めてもらうことができた。また、児童生徒にとっては視覚障害に配慮された授業で、学芸員の専門的な知識に触れることができ、非常に有益な時間となっている。今後も継続的に、互いに有益な関係が築けるようにしたいと考えている。

#### ⑦【やまぐちロービジョン勉強会】ロービジョンフォーラムの運営協力

平成28年に「やまぐちロービジョン勉強会」が発足した。本会は、山口県内の視覚障害者のQOL向上のため、ロービジョンケアの普及および発展に努め、会員相互の連携を図ることを目的としている。主として山口県内の眼科医、視能訓練士や看護師など医療従事者、教育および福祉関係者、企業従事者などが参加している。本校センター室からも役員としてボランティア参加している。定期的に勉強会を行い、専門性の向上や、理解啓発活動を行っている。また、「やまぐちロービジョンフォーラム」を毎年実施しており、下関南総合支援学校からも講演会講師や運営スタッフとして参加している。



ロービジョンフォーラム・マッサージ体験(理療科教員)

### 3 成果と今後の課題

県内の視覚障害児童生徒に対し、上述した支援・連携を行うことで、充実した教育活動ができている。今後も継続した活動を展開したい。

総合支援学校という特殊な事情がある中で、はじめにも述べたように、視覚障害のない幼児児童生徒の在籍が増えている。現場の教員は、それぞれが担当する幼児児童生徒の多様な特性に合わせた日々の授業実践や研修にも取り組んでいる。このような中、視覚障害教育センターが視覚障害教育の専門性を継承していくという役割と使命を自覚して、校内の視覚障害理解啓発に努めていく必要がある。

校外においては支援マップを作成したり、医療・福祉・教育の関係機関連携協議会を開催したりするなど、連携強化されている。ただ、教育機関以外との連携では視覚障害教育センターとしての業務と個人の活動の線引きが難しく、個々の教員の熱意に頼っている現状がある。

また、視覚障害児童生徒が非常に少なく、毎年決まった学年で交流する、といった形が取れない。個別に応じた交流等の設定が必要となり、担任等の負担も大きい。視覚障害教育センターと担任が連携し、持続可能な形を模索していく必要がある。

#### 〈参考〉

山口県特別支援教育推進計画（2018年度～2022年度）山口県教育委員会

